

方言が専門でない人に聞いてみた

『ワークブック 方言で考える日本語学』を授業で使って

方言が専門でない人

清田朗裕先生（愛媛大学 教育学部）

著者

松丸真大（滋賀大学 教育学部）

白岩広行（立正大学 文学部）

原田走一郎（長崎大学 多文化社会学部）

平塚雄亮（中京大学 文学部）

このセミナーの概要

- 『ワークブック 方言で考える日本語学』の特徴を解説（著者）
- 同書の使い方の事例を紹介（著者・清田先生）
- ご質問・ご要望を拝聴（清田先生・参加者）

『ワークブック 方言で考える日本語学』の特徴

- 方言で考える
- 実際に手を動かして考える
- 解説控えめ

特徴Ⅰ 方言で考える

- 方言（話し言葉）にも文法があることに気づく
- 標準語（書き言葉）を相対的に捉える
- 自分たちのことばを肯定的に捉える

特徴Ⅰ 方言で考える

■ 基本問題 6

次の例は、どれがあなたにとって自然ですか？

(28) どのボタンを {押せば／押したら／押すと}、いいですか？

(29) お金さえ {払えば／払ったら／払うと}、子供を返してくれるんですね。

特徴Ⅰ 方言で考える

■ 発展問題 2：東京と大阪の「ば」「と」「たら」

東京と大阪で「ば」「と」「たら」などの使い分けを調査した結果（真田 2001: 36）の一部を下に示しています。（Ⅰ）～（Ⅲ）の例文を提示し、いずれの形式を用いるか、100人に尋ねた結果を東京と大阪に分けて示しています（合計が100にならないこともあります）。どのような傾向がみられるでしょうか？

- （Ⅰ）もっと早く {起きれば／起きると／起きたら} よかった。
 （Ⅱ）右に {行けば／行くと／行ったら} ポストが見えます。
 （Ⅲ）もし火事に {なれば／なると／なったら} どうしよう。

東京	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
ば	94	16	0
と	4	75	0
たら	2	8	100

大阪	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
ば	20	13	0
と	0	4	0
たら	78	83	100

特徴2 実際に手を動かして考える

- ことばを分析することを体験し、分析方法を身につける
- 疑問を持ってから説明を読む（聞く）
- 付属のQRコード記載用紙で解答・解説にアクセス可能

特徴3 解説控えめ

- 問題と解説がセットになっている
- 基本の「き」だけを解説
- あとは授業者にお任せ

『ワークブック 方言で考える日本語学』の構成

- 第1課 私たちは日本語を知らない
- 第2課 母音と子音
- 第3課 五十音図と特殊拍
- 第4課 アクセント
- 第5課 形態素
- 第6課 語と句
- 第7課 格ととりたて
- 第8課 複文
- 第9課 活用
- 第10課 ヴォイス
- 第11課 アスペクト・テンス
- 第12課 モダリティ
- 第13課 待遇表現
- 第14課 語彙
- 第15課 言語変化
- 第16課 方言研究の方法

授業での使用例 | 講義形式（立正大学 文学部）

- 授業中に解説をおこなう
- 授業内に時間をとって問題を解く（息抜きを兼ねる）
- 教員からコメントを返す
 - オンライン提出だと解答・コメントを共有できる
- 前期で第1-9課、後期で第10-16課を扱う。半期だけでも受講可能
- 概論科目。受講生が大人数でも対応可

授業での使用例Ⅰ 講義形式 授業計画（前期15回）

1. ガイダンス
2. 第1課 私たちは日本語を知らない
3. 第2課 母音と子音
4. 第2-3課 音素と五十音図
5. 第3課 特殊拍
6. 第4課 アクセント
7. 第5課 形態素
8. 第5-6課 語
9. 第6課 品詞・句
10. 第7課 格ととりたて
11. 第7課 格配列
12. 第8課 複文
13. 第9課 活用
14. 第9課 音便
15. まとめ

- 前期は音声、形態論関連
- 2回の授業で1課分、3回の授業で2課分のときも¹¹

授業での使用例 | 講義形式 授業計画（後期15回）

1. ガイダンス
2. 第10課 受身・使役
3. 第10課 自発・可能
4. 第11課 アスペクト
5. 第11課 テンス
6. 第12課 モダリティ
7. 第12課 終助詞
8. 第13課 待遇表現（1）
9. 第13課 待遇表現（2）
10. 第14課 語彙（1）
11. 第14課 語彙（2）
12. 第15課 言語変化（1）
13. 第15課 言語変化（2）
14. 第16課 言語研究の方法
15. まとめ

- 後期は述語の文法カテゴリー、その他
- 2回の授業で1課分を基本

授業での使用例2 チュートリアル形式（滋賀大学 教育学部）

- 次回の課を読んでおく（授業外学習）
 - 授業開始までに課題を解く（オンライン提出）
 - 授業では簡単な解説→問題を解く
-
- 2年生以上配当、中学校I種国語免許の必修科目、40～50名受講

授業での使用例2 チュートリアル形式 授業計画

- 概要説明・第1課 私たちは…
- 第2課 母音と子音
- 第3課 五十音図と特殊拍
- 第4課 アクセント
- 小テスト1・小テスト解説
- 第5課 形態素
- 第6課 語と句
- 第7課 格ととりたて
- 第8課 複文
- 小テスト2・小テスト解説
- 第9課 活用
- 第10課 ヴォイス
- 第11課 アスペクト・テンス
- 第12課 モダリティ
- 小テスト3・小テスト解説